

6月29日(月曜日)「共に住む幸い」

【新改訳 2017】

詩篇 133・1-3

「見よ。兄弟たちが1つになって共に住むことは、なんといいあわせ、なんといい楽しさであろう。それは頭の上にそそがれたとうとい油のようだ。……主がそこにとこしえのいのちの祝福を命じられたからである。」

1つとなって神から託された使命を全うすべきイスラエルの民には、しばしば離反や分裂がありました。そのたびごとに、回復後の一体感は大きな喜びであり、幸いであったことでしょう。その幸福感と喜びは、祭司の叙任の時に注がれた油のように広がり、ヘルモン山からの露がエルサレムを潤したのに似ていると歌っています。そして、何よりも主が、その交わりにとこしえのいのちの祝福を命じておられるというのです。ここまで、気づいているでしょうか。

クリスチャンの中に、共同の共なる礼拝や交わりをあまり重視しないかに思われる人がいることは残念です。初代教会の、日々宮に集まり、祝福された姿にも学びましょう。(使徒 2・46、

47参照)。「1 つになって住む」幸いがわかる信仰者となりましょう。

～祈り～

主よ。御霊にある交わりと一致の希望を与えてくださり感謝します。その希望がより確かな現実となり、一人一人が、とこしえのいのちの祝福を得られますように。

**【学びのために】**

「頭の上に注がれた油」については、出エジプト29・7、30・22－31参照。キリスト者として、主にある交わり(礼拝やその他の集い)の恵みがわかり、大切にする信仰者であらせたいものです。